

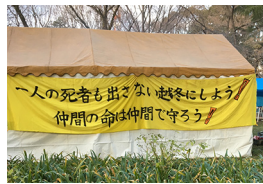
# おっちゃんだより



## ● 2020年の越冬報告

今期越冬は、2020年12月28日(月)～2021年1月3日(月)の7日間、朝9時から夜19時までボランティアの方々の協力を得て行ないました。今年は新型コロナウイルス感染症の対応もあり、10名のボランティアを中心に活動いたしました。炊き出しの応援には、有志の方々、日本キリスト教団の教会、カトリック教会、聖公会、ルーテル教会の皆さんが、日替わりで親子丼、ハッシュドポーク、シチュー、牛筋丼、中華丼、カレーライスを提供してくださいました。越冬突入にあたり、活動の内容の確認やテント設営を手際よく実施できました。

活動内容は、炊き出し、散髪、31日の21時から夜回りを中心に、ボランティアの方は検温と手洗いをしてから来訪者の検温や簡単な受付をして頂いた。(マスク・手洗い・検温)



越冬設営



## ● 「一人の命」

10年前からとても仲良くしている路上生活者の方がいました。名前は杉山さん(仮名)。夜に出る廃品回収品の中から高価なブランド品を見つけるのが得意で、路上生活をしていると思えないほど、生活は充実していました。杉山さんは健康診断チェックをする私に対して「お世話になっているから」と時々焼肉を御馳走してくれるくらいの生活でした。

しかし、2020年3月頃から生活に変化が見られました。新型コロナウイルスの影響により、廃品回収では高価な物が取れなくなったのです。心より所のお気に入りの店も5月に閉店し、じわじわとメンタル面がやられてゆきました。食べる努力をしなくなり、体力も体重も減少し始めました。7月には、区の巡回相談員や私たちが病院受診を勧めても「もういいよ、ここにいるよ」と小さくつぶやくだけです。

8月21日公衆電話から

「牧姉さん、今までありがとう……」

と私の携帯に電話が入ったのです。杉山さんは小屋で死ぬ事を決意したのだと、頭が真っ白になりました。

その夜の炊き出しにボランティアの精神科医にその事を相談すると

「牧さんそれは、放っておいたら駄目だよ」

と夜の8時過ぎているにもかかわらず、一緒に小屋へ行ってくれ杉山さんを説得してくれました。

翌日、迎えに行くとこわごわ車に乗り、その精神科の先生のクリニックへ行って、後日入院の運びとなりました。

1日3食きちんと食べて体力をつけて、安定剤を内服し、次第に心身ともに落ち着いてきました。

2ヶ月経ち、退院の許可も出て、アパート暮らしも出来ました。まだ杉山さんの心はザワザワするけれども、今では週に5回私が訪問看護に出向き、様子を見ています。あの時8月21日私が誰にも話をせずに、諦めていたら、あの夜に自死していただろうとも言われました。

「本人の思う通りに！」を目標に野宿者支援をしています。自分が出来ない事はいろんな人に助けてもらうのも大切な事だということを知りました。

一つの命助かって良かった！心の底からそう思いました。

イエローエンジェルさんから頂いた防寒具を野宿者に渡しているところです。真ん中上の小屋とその下は中村さん(仮名)の台所です。自家製コンロは拾った竹や雑誌、新聞紙の燃料で炊事をしています。野宿歴10年のベテランです。となりは浅井さん(仮名)。この方は青空散髪屋の常連さん。お二人とも、ジャンパーやズボンをととても喜ばれてました。宗次さんありがとうございます。



## 越冬ボランティアの皆様お疲れ様でした

